

インフルエンザ菌b型ワクチン

ヒブ髄膜炎とはヒブ（H i b：ヘモフィルス・インフルエンザb型菌）という名前の菌による細菌性髄膜炎のことです。

細菌性髄膜炎は以前は脳膜炎といわれ、脊髄や脳を守る膜（髄膜）に細菌が感染し、発熱・嘔吐・頭痛（不機嫌）などを主な症状とする重篤な病気です。

死に至ることもあり、生存し得ても様々な後遺症を残す可能性がある怖い病気です。

	2011年1月1日からの接種	2010年12月31日までの接種
助成対象者	5歳未満の乳幼児	2歳未満の乳幼児
接種医療機関	医療法人同和会 追分菊池病院 医療法人社団 畑山医院 医療法人社団誠医学会 早来医院	同 左
用意するもの	予診票・母子健康手帳	母子健康手帳
接種回数	接種開始年齢により1回～4回	接種開始年齢により1回～4回
助成額	全額助成	半額助成 (生活保護世帯は全額)
申請手続など	必要ありません	役場窓口で早めに払戻しを受けてください



ヒブ髄膜炎は病状が重く後遺症を残す頻度も高いとされ、町ではこれまでに特に罹りやすい年齢0歳（生後4ヶ月頃）から2歳までを対象に助成をしてきましたが、今回その対象年齢を5歳未満まで拡大し（罹患率が5歳を超えると減るとされる）助成額も全額助成することとしました。

一般的な予防接種の受け方

病気になってから治療するより、予防接種でしっかり予防することで重篤化や後遺症を残さないなど、体の負担をすくなくする目的があります。

一般の予防接種はこの医療機関でも受けられますが、今回ご紹介した町からの助成を受ける場合または医療機関によっては予防接種を実施していない場合がありますので、各予防接種の接種方法や町の助成要件などを良くご確認のうえ対応をお願いします。

町が実施する予防接種のほとんどが、自ら医療機関に行つて受ける「個別接種」になっています。

公費でできる予防接種の実施医療機関は限られていて、受入が可能な医療機関でも接種者の希望する時期や時間に対応できるとは限りませんので事前に医療機関への確認をお願いいたします。

予防接種は、当日の体調や持病（アレルギー）などによつて必ずしも「受けたほうが良い」ことばかりではありません。予診票の記入や医師との問診を行ったうえで、本人の判断で実施することが原則です。（未成年者は親の同意が必要となります。）

また予防接種には副反応が稀にでる場合がありますので、必ず医師とご相談のうえ、実施してください。

相談やご不明な点の問合せは

健康福祉課 健康推進グループ

☎ ⑤ 4 5 5 6